



# UNION NEWS

https://www.jrtu.jp

東海旅客鉄道労働組合

E-mail sodan@jrtu.or.jp

東京本部 〒108-0075 東京都港区現前2-1-95  
JR東海品川にじふ号ビル (03)6718-1251  
名古屋本部 〒453-0002 名古屋市中村区名駅1-1-13 (052)566-3127

JR東海ユニオン

(1部20%)組合員の購読料に含む

発行人 尾内 裕昭 / 編集長 宮崎 勝典

## 第39回定期中央委員会を開催!



## ~当面の活動方針を満場一致で決定~

2月6日、ホテルアソシア豊橋にて、第39回定期中央委員会を開催した。先の定期大会で確認したスローガンに加え、「安全・安定輸送の確立、2025春季生活闘争勝利、さらなる組織強化・拡大、参院選・静岡市議選をはじめとする全選挙勝利」として掲げたサブスローガンと、当面の活動方針を満場一致で決定した。

委員会では、2025春季生活闘争の取り組みや「UNION FUTURE 2027」に基づく、詳細な当面の活動方針等が提起され、19名の中央委員、特別中央委員から力強い補強意見が示され、最後に、尾内中央執行委員長による団結カンパニーにより締めくくった。

「組織の活性化」については、対面による声掛けから始め、対話を活性化させ、コミュニケーションのさらなる充実を図っていく。また、組合活動の原点である「相互扶助や助け合いの精神」を、今一度強く意識しながら各種活動を進めて頂くよう要請する。

「ハートフルカンパニーの実現」に向けては、各機関並びに組合員と緊密に連携・議論の上で、進むべき方向を見定めるとともに、政治政策活動等において得られた知見を広く共有した上で、各種労使交渉・協議を展開し、その経過について再び組織内へ好循環を図っていく、具体的提言「ハートフルカンパニービジョン2027」の実現に向けて不断に取り組んでいく。

「安全の確立」については、残念ながら、未だ安全を損なう事象の根絶に至っておらず、JR東海管内でも昨年12月に高塚駅構内において、保守作業中に協力会社社員の触車死亡事故が発生させてしまった。原因究明並びに再発防止に努めていく。また、アサーション(確認会話)による安全意識の高い職場風土作りに向け、組合員の安全意識の向上を図るためのキャンペーンも実施していくが、「心理的安全性」の向上に資するものとして展開していく。全組合員に浸透させ、「アサーションのあたりまえ化」を図っていく。

本中央委員会は、上期の運動を振り返り、下期における運動の意思統一を図る重要な委員会である。特に、2025春季生活闘争の方針を決定する重要な機関会議である。これから提起する当面の重点活動並びに全ての議案に対して積極的な討議を要請する。



## 尾内中央執行委員長あいさつ(要旨)

は、将来を見据えた「経営体力の再強化」に基づく更なる変革への対応に取組む。将来にわたって3世代鉄道を安全・安定に運用し、「将来にわたる会社の発展と組合員・家族の幸せ実現」に向けた責任を果たし続けていくために重要な取組みとなる。JR東海グループ全体で、人材の確保が持続できる魅力ある労働条件としていくことが肝要である。2025春季生活闘争では、組合員の地まな努力により、この間の厳しい経営状況や環境も乗り越え、経営が大きく回復したことを踏まえつつこの間の物価上昇への対応は勿論のこと、未来を見据えた賃金面での前進を図ることを基軸に、制度や福利厚生等のあらゆる労働条件の向上を目指す、「総合生活改善」に資する闘いをあらためて強固に打ち出し、組織の総力を挙げて取り組んでいく。

最後に「政治政策活動」については、昨年10月の第50回衆議院議員総選挙で、私たちが応援した大多数の推薦候補者の当選を果たすことが出来た。この間の御支援と御協力が感謝申し上げます。昨今の政局を鑑みても、私たちが国民生活の問題を解決するには、政治が極めて重要な役割となっている。「政治は無関心でいられても、無関係ではないられません。私たちの課題も政治の場に繋げ、解決に取り組んで頂いている関係議員の支援を引き続き要請する。なお、当面の取り組みとしては、本日のサブスローガンにも掲げる、本年7月に予定されている第27回参議院議員通常選挙における静岡県選挙区の「樺葉貴津也参議院議員」、全国比例における「田村まみ参議院議員」「浜野よしふみ参議院議員」「小沢まさひと参議院議員」をはじめとするJR東海・JR東海ユニオン全推薦候補者の必勝に加え、本年3月23日の静岡市議会議員選挙で駿河区から出馬するJR東海ユニオン組織内候補である「牧野よしなお」氏の必勝に向け、絶大な御支援と御協力をあらためて要請する。結び引き続き下期の活動を組織一丸となって取り組むとともに、2025春季生活闘争で大きな成果を結果させられるようJR東海ユニオン「ON Eチーム」となるとともに頑張ろう。